

現代に継承される出雲流神楽



UNESCO intangible cultural heritage

ユネスコ無形文化遺産

佐太神能

SADA SHINNOU

2020年 特別公開

佐太神社舞殿が修復工事のため会場が変わります。

松江市
鹿島支所3F

松江市鹿島町佐陀本郷640-1

◆松江しんじ湖温泉から車で約15分

◆玉造温泉から約30分



公開日及び演目

| 公開日 | 4/25 | 5/9 | 6/13 | 7/11 | 8/8 | 9/5 | |
|-----|------|----------------------|------------------------|-----------------------|--|----------------------|----------------------|
| 演目 | 七座 | さんく 散供 (15分) | けんまい 剣舞 (25分) | きよめ 清目 (20分) | かんじょう 勧請 (15分) たさく 手草 (25分) | やおとめ 八乙女 (15分) | ござ 御座 (20分) |
| | 式三番 | しきさんばん 式三番(35分) | — | — | — | — | — |
| | 神能 | まさりめ 眞切女 (30分) | さんじんさい 山神祭 (20分) | えびす 恵比寿 (25分) | いわと 磐戸 (50分) | やわた 八幡 (25分) | こくじょう 国譲 (35分) |
| | | おおやしろ 大社 (35分) | たけみかつち 武甕槌 (35分) | やまとだけ 日本武 (40分) | やえがき 八重垣 (35分) | | |

毎回土曜日《20時～21時30分》

*演目内容によっては10分程度遅くなることがあります。

*都合により演目が変更になる場合があります。

*佐陀神能の会場での写真撮影はできません。あらかじめご了承ください。

募集人数 各100名 〈予約制〉

*定員に満たない場合は当日も可

席 料

[個人]1,200円(中学生以下無料)

*年間パスポート2,500円

[団体]1,000円(20名以上)

ご予約方法

◎下記申込先までお電話にてご希望の日をご予約ください。

*個人受付：実施日の前日16:00まで *団体受付：実施日の7日前まで
<お支払い方法>

個人 [現金] [銀行振込] [web クレジットカード]

*現金でのお支払窓口は「一畑トラベルサービス松江駅前営業所」のみとなります。

*当店、現地でのお支払いは受付けておりません。予めご了承くださいませ。

団体 (一社)松江観光協会より後日、請求書を発送させていただきます。

*お客様のご都合によるお支払い後のキャンセル・払い戻しは一切できません。
※日程の変更是可能です。お問い合わせください。

*各地から会場までは、お客様ご自身で移動をお願いいたします。

タクシー等のお手配をご希望の場合はご予約の際にご相談ください。

*路線バスの臨時運行はございません。

<お申込み・お問い合わせ先> 営業時間9:00～18:00(年中無休)

株式会社一畑トラベルサービス ナイスデーツアーセンター

TEL : 0120-333-556 FAX : 0852-31-4805

主催／(一社)松江観光協会 島根県松江市中原町19

写真提供：加島美知

TEL : 0852-27-5843 FAX : 0852-26-6869 E-mail : mail@kankou-matsue.jp

後援／佐太神社・島根県・島根県教育委員会・松江市・松江市教育委員会

佐太神社の御由緒

佐太神社は出雲國風土記に「カンナビヤマの麓に座す」
佐太神社または佐太御子社と記されており、延喜式(九
条家本)では出雲國二ノ宮と称され、出雲國三大社の一つと
して「佐陀大社」と称えられた御社です。

莊嚴な出雲造りの御本殿三社(指定重要文化財)に主
祭神の佐太神をはじめ十二柱の神々をお祀りしていま
す。佐太神は猿田毘古大神とご同神で「導きの神」とし
て知られています。また、八百万の神々がお集まりになる神在祭
は出雲の国数社で執り行われているものの中でも、文献
上最も古く、かつ祭りの形態も古い形を受け伝えられており、
『神在の社』といわれ、全国各地から広く信仰を集めています。



莊嚴な出雲造りの御本殿三社 [佐太神社]
(国指定重要文化財)

神能演目解説

大社 佐太神社の縁起を題材にした演目

《登場する神・人物》

朝廷の臣下、老人(佐太神の化身)、佐太神、龍神

《登場する神・人物》

奏仁(くしなだめ)、櫛稻田姫、素戔鳴尊、八岐大蛇

《登場する神・人物》

前段(みかど)出雲の国佐陀の社には多くの神祕があると聞いた帝の命を受け、朝廷に仕える臣下が佐陀大社(佐太神社)を訪れます。神社で臣下は老人に出会い、神社の縁起(由緒)と神無月の由来を尋ねます。老人は、この地方では神無月ではなく神在月と呼ぶこと、そして神社の縁起について語り、姿を隠します。

後段(みかど)佐太神が現れ舞を舞います。すると空には黒雲がたなびき、雨風が吹き、音楽が聞こえてくると共に龍神が宝の箱を持って現れます。龍神は大神に宝の箱から龍蛇神を捧げ、空へと帰っていきます。そして、龍蛇神を受け取った大神は「八百万の神の父母は我なり」と言いながら佐陀大社の社殿へお入りになられます。

後段(みかど)八色の雲が立ち起こり大蛇が現れます。大蛇が毒酒を飲み、弱ったところを見計らった素戔鳴尊は大蛇を退治します。そして、大蛇を切り刻んだ際、尾先を裂き開いたところ天叢雲剣が出来ました。

武甕槌 佐太神社の縁起を題材とした演目

《登場する人物》

武甕槌命、大己貴命(大国主命・大黒)、武御名方命

《登場する神・人物》

前段(みかど)天照大神の命を受けた武甕槌命は出雲の国に降り立ち大

時都ではやつていて猿樂、幸若などの形式を用いて創作されたのではないかといわれています。神能の演目は、神話や神社の縁起を基にして作られており、現在は十二段(内、中絶しているものが三段と番外としての二段が継承されています)。

式三番

祝言として舞われるものであり、能楽にある「式三番」と同形式

のものです。佐太神社に伝わる式三番は、能楽のものより地方色や古い形式が残ったものとなっています。

千歳(せんさい)」「翁(おきな)」「三番叟(さんばんそう)」の順で舞われます。

七座神事

「御座替祭」の際に敷きかえる本殿の莫産を清めるために執り行われる神事舞です。「剣舞」「散供」「清日」「御座」「勧請」「八乙女」「手草」の七つの舞があり、舞により剣、榾、莫産、小幣、大幣、鈴等の採物を持つて舞われます。

その後、天叢雲剣は草薙劍と呼ばれるようになり、熱田神宮に納められる事となります。

八重垣 素戔鳴尊の八岐大蛇退治の神話を題材とした演目

磐戸 天照大神が岩戸へと籠もられた

《登場する神・人物》

奏仁(くしなだめ)、若宮臣、玉鉢臣、天鉢女命、手力雄命、天照大神、素戔鳴尊

《登場する神・人物》

前段(みかど)奏仁が現れ、素戔鳴尊が悪行の数々を行つたことに怒った天照大神が、天の岩戸へと身を隠されたことにより、世の中が暗闇になってしまったことを語ります。

後段(みかど)岩戸の前では天照大神に出てきてもらうため湯立神事を行うこととします。若宮臣、玉鉢臣、天鉢女命を招いて神樂を奏していると、それが気になった天照大神は、岩戸を少し開きます。それを見計らい手力雄命が岩戸を開き、世の中が再び明るくなります。そして神々は、素戔鳴尊を根の國へ追い払い、国土は静かに治まりました。

眞切女 切女命の話を題材とした演目

《登場する神・人物》

武度命(まつともじめ)に仕える神主、切女命

《登場する神・人物》

前段(みかど)法度命に仕える神主が、天照大神の磐戸開きの時に使われた鞆鼓(づみ)が祀られる鼓の瀧を訪ねます。身を隠されたことにより、世の中が暗闇になってしまった事を語ります。

後段(みかど)日が暮れると、瀧の岩間から輝く御幣と鼓を持った神が現れ、鼓の由来を語り、自らが切目命であることを名乗り舞を舞い、再び姿を隠します。